

プランナーコラム

Vol.1 2012年11月29日

ごあいさつならびにスマートコミュニティという言葉について の巻



皆様、はじめまして。株式会社日本能率協会コンサルティング マーケティング本部 コンサルティングプランナーの江原 央樹(えはらひろき)と申します。11月26日に、めでたく弊社のエネルギー産業支援に関するホームページ(<http://www.jmac.co.jp/special/energy/>)を立ち上げさせていただきました。本ページを通じて、可能な限りタイムリーに足で稼いだ生の情報発信を推進してまいりたいと考えております。また、本ホームページが、エネルギー産業に関われる皆様と双方向のやりとりをさせていただく架け橋となればと願っておりますので、本ホームページへのご感想、ご質問、ご意見、その他ご相談などございましたらお気軽に以下のアドレスまでメールをいただければ幸いです。それでは今後どうかよろしくお願い申し上げます。

energy_jmac@jmac.co.jp

なお、本プランナーコラムですが、弊社のエネルギー産業支援チームの田中と私、江原が日頃のプロモーションおよびマーケティング活動や取材活動を通じて、見聞きしたことや感じたことを気ままに書き記し、皆様に共有させていただくものです。新聞やテレビでは得られない生の情報提供を意識してまいりますので、ぜひご期待ください。

さて、記念すべきvol.1は、最近特に注目されるようになったスマートコミュニティについて少しお話ししたいと思います。スマートコミュニティという言葉は、2年ほど前に、経済産業省が提唱した言葉で、当初は“新しい社会インフラであり、新しい街づくりのコンセプト”という意味合いで使われていたようですが、さまざまな議論を経て現在では、「再生可能エネルギーを、住宅やビル、交通、ライフスタイル転換など、一連の社会システムとして効率的に活用する社会」と定義されています。

しかし、初めて聞いた方は、わかるようでわからないという印象をお持ちではないでしょうか？正直、私もはじめはそうでした。いろいろお話を聞いてみるとなんとなくその訳がわかりました。言葉が生まれた2年前には、スマート・グリッド(賢い電力網)という言葉がまだ主流で、ITの活用により電気を有効に活用する電力網の整備がアメリカで注目されていたことから、新しいインフラの主体が、情報通信すなわちITでした。その後、低炭素化の実現に向けた再生可能エネルギーの有効活用とその手段としてのエネルギーマネジメントシステムといった新たなインフラの概念が普及し、東日本大震災後は、電力供給不安を経験したことから節電や省エネ主体のライフスタイルへ転換することの重要性がより一層増していることから現在のような定義に落ち着いたとみることができます。右図は、経済産業省が提示するスマートコミュニティのイメージですが、次回のコラムでスマートコミュニティについてもう少し詳しく触れてみたいと思います。

文責:コンサルティングプランナー 江原 央樹



出所: 経済産業省ホームページ

JMAC
JMA Consultants Inc.

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング
TEL.03-3434-0982 mail :energy_jmac@jmac.co.jp

URL:<http://www.jmac.co.jp>